ボーリング柱状図

調　査　名　東平尾公園地質調査業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	Ｎｏ．３	調査位置	福岡市博多区東平尾公園二丁目地内					北緯	33° 58’ 6164″
発注機関	福岡市住宅都市局みどりのまち推進部みどり整備課			調査期間	平成 29年 2月 10日 ～ 29年 2月 16日			東経	130° 46’ 4013″
調査業者名	カイ・ボー 電話（０９２－８４４－０１３４）	主任技師	海田　龍正	現場代理人	海田　宏光	コア鑑定者	海田　龍正	ボーリング責任者	海田　宏光
孔口標高	KBM 62.35m	角度	上 180° 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 0° 90° 東 180° 南 270° 西	地盤勾配	鉛直 90° 0°　水平 0°	使用機種	
総掘進長	12.06m								
試錐機	ＹＢＭ－０５			ハンマー落下用具	半自動落下式				
エンジン	ヤンマ－ＮＦＡＤ－８Ｋ			ポンプ	ＹＢＭ－ＧＰ－５				

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
	62.15	0.20	0.20		表土	褐	緩		枯葉・植根混入	(現)														
1					強風化砂質頁岩	淡黄灰～黄褐灰		硬い	強い風化を受け褐色粘土化する コア形状は礫混じり土状で採取 コア強度は指圧で指跡が残る 全体的に粘性は弱い 所々に細粒砂分を混入する 若干、岩片が残る 掘削時、孔壁は崩れず自立する 循環泥水は、殆ど逸水はない 含水比は低い			1.15	4	4	6	14／30	14						2／10
2												1.45 2.15	8	7	8	23／30	23						
3	59.35	2.80	3.00									2.45 3.15	13	11	12	36／30	36						
4												3.45 4.15	9	7	8	24／30	24						
5												4.45 5.15	9	23	18／4	50／24	63						
6					風化砂質頁岩	淡黄灰～淡青灰～青灰		非常に硬い～固結	軟岩・土丹盤の岩盤となる 風化を受け岩質劣化している コア形状は固結～岩塊～棒柱状コアで採取される 全体に細粒砂分を含有する 所々に岩片が残り硬質となる GL-5.55～5.70m間、未風化部 GL-7.40～7.90m間、未風化部 GL-9.50～9.95m間、未風化部 色調の変化が見られる 比較的、孔壁は安定している 循環泥水では、殆ど逸水もない 含水比は低い GL-7m以深、固結した傾向を示す 軟岩・硬岩用WCTを併用し掘削	第三紀層（堆積岩類）	2/16 6.30	5.39 6.15	9	7	7	23／30	23						2／13
7												6.45 7.00	50			50／10	150						
8												7.10 8.15	11	16	19	46／30	46						
9												8.45 9.15	16	23	11／5	50／25	60						2／14
10	52.15	7.20	10.20									9.40 10.00	15	27	8／2	50／22	68						
11					頁岩	淡灰～淡暗灰～青灰		固結	比較的、新鮮な岩盤となる コア形状は棒柱状コアで採取し、ハンマー強打すると壊れる程度 所々で亀裂が見られる GL-10.5～10.8m間、礫岩挟む GL-10.8m付近、炭質を薄く挟む 孔壁は非常に安定している 硬岩用ダイヤビットで掘削			10.22 11.00	50			50／10	150						
12	50.29	1.86	12.06									11.10 12.00	50／6			50／6	250						2／15
13												12.06											
14																							
15																							

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。